

病児保育奮闘記

(24)

子どもサポート H&K

大石 仁美

コロナ禍のなかで

コロナ禍のなかで、3、4、5月と開店休業状態が続きました。たまに、休校中で一人留守番の小学生が、ポツリと顔を出す程度。実をいうと、感染していると確定した子どもが病児として来ることはありませんが、可能性のある子どもが来ないとも限りません。病児保育室なのですから熱や咳があるから「お断り」というのはおかしな話です。

一般の保育園では、熱、咳、鼻汁などの風邪症状が一つでもあると登園禁止になるらしく、さらに家族に一人でも風邪症状の人がいると、登園を控えてほしいということになっているそうです。それでやりくりできる家庭はいいですが、ただでさえコロナ禍のなかでしんどい仕事を強いられている保護者にはたまったものではありません。

コロナウイルス感染の疑いの可能性がある家族（例えば、コロナ診療を手掛けている病院の職員）の子どもが発熱で来所した場合、「可能性がゼロではないから・・・」

と言って断る？ そんなバカなことはありません！ 病児保育としてはあり得ないことです。不安がないといえウソになります。だからといって、自ら建てた柱を引き抜くことは出来ません。

実際、数件同じような問い合わせの電話がありました。「そちらの保育室では、預かっていたとき何か条件をつけていますか？例えばこんな場合は預かれないとか・・・」

「いいえ。何も変わりません。いままで通りです。」

「よかった！いえ、今元気にしてるんですけどね。何かあったらどうしようかと思って。よかった!!」

親御さんの不安な気持と安堵した気持ちがひしひしと伝わってきます。

どんな場合も前向きに受け入れること。それは設立理念です。

何をすることも多少のリスクはつきものですが、交通事故が怖いからといって、全く外出しない人がいるでしょうか。ただ、リスクをしっかりと頭に入れて、どう対応するかが問われるのだと思います。

冷静に情報を整理して、どう対応するか、一番大切なのは、スタッフ間の知識の共有と連携だと思うので、入室時の受け入れからの対応の仕方を箇条書きにして、壁に貼ることにしました。

- ① 入室時、保護者には玄関で手指の消毒をしてから入ってもらうこと
- ② 使用する部屋は 全ての空気清浄機をフル回転させておくこと
- ③ 熱、咳がある子どもが来たとき、兄弟姉妹は同じ部屋にし、他の子と別室にすること
- ④ 二階の保育室に入室時、保育者だけでなく、子どもの手も石鹸と流水で丁寧に洗うこと
- ⑤ マスクも保育者だけでなく、可能な範囲で子どもにもしてもらうこと
- ⑥ ティッシュペーパーで鼻水をふき取った後は、その都度石鹸で手を洗うか、消毒用アルコールで手指消毒をすること
- ⑦ おむつ交換時は使い捨て手袋を着用すること
- ⑧ おもちゃは最低必要限にして、子どもが帰宅後、次亜塩素酸ナトリウム（ミルトン）で消毒すること
- ⑨ 部屋の掃除も戸、机、トイレ等はミルトンまたはアルコール消毒をすること
- ⑩ 仕事を終えた後は、更衣をし、ガウンおよび脱いだ衣類を洗濯してから、うがい、手洗いをして帰宅すること

これらのことは、もともと接触、飛沫感染以外に空気感染もある水疱瘡の時にやっていたことで、隔離して、保育者も専属にすることで、他の子への感染を防げ

ていたのですから、出来ないことではありません。ただ、決定的な違いは、大人である保育者は免疫を持っていたということです。今回の新型コロナは誰も免疫を持っていない。子ども同士の感染は防げても、保育者への感染は防げません。

どうする!!

万が一を考えた時、これはもう一番若い人に犠牲になってもらう他ありません。

息子よ 許せ!

期待して?待っていますが、未だそれらしき人は現れていません。



新型コロナ いやだ〜ワン



ストレス発散だあ〜